

所属・氏名（ 健康科学部 医療栄養学科 氏名：長嶺 憲太郎 ）

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概 要
1 (学術論文) Genetic detection of oral bacteria using tablet medium 《筆頭論文》	共	2023年1月	The Journal of Japanese Society for Clinical Microbiology 33, 25-29	タブレット型に成形した固形培地と唾液をマイクロチューブに入れ培養した。その後、唾液を直接 LAMP 反応液に添加し、ミュータンス菌を検出した。 (長嶺憲太郎, 木村留美, 北川雅恵)
2 (学術論文) Effect of Lactobacillus rhamnosus L8020 tablet on the number of cnm positive Streptococcus mutans	共	2023年1月	日本口腔検査学会雑誌, 15, 9-13	健康者ボランティア 81 名のうち、cnm 遺伝子陽性を認めた 17 名に対して、Lactobacillus rhamnosus L8020 のタブレットを摂取させた結果、いずれも有意に菌数は低下した。 (北川雅恵、田地 豪、長嶺憲太郎、二川浩樹)
3 (特許出願) 2 種以上の菌の培養方法及び検出方法	単	2022年4月	特願 2022-065878	液体試料中に存在する目的とする複数種の菌を一括して増殖させる培養方法、および、一括して検出する方法に関するものである。 (長嶺憲太郎)
4 (著書) LAMP 法を用いた口腔内細菌の簡便・迅速診断法の開発	単	2021年12月	化学工業12月号 pp. 814-819	新規細菌培養法と LAMP 法を組み合わせた cnm 遺伝子および fimA 遺伝子の簡易検出法とそれを用いた臨床での結果について述べた。 (長嶺憲太郎)
5 (総説) The role of RASGRP2 in vascular endothelial cells	共	2021年10月	International Journal of Molecular Sciences, 22, 11129	RASGRP ファミリーの中で RASGRP2 が血管内皮細胞でどのような働きをするかを解説した。 (瀧野純一, 宮崎翔平, 長嶺憲太郎, 堀 隆光)
6 (総説) 全身疾患に関わる口腔内細菌の遺伝子の遺伝子検査	共	2021年7月	Precision Medicine, 4, 90(796)-94(800)	LAMP 法を用いることによって、cnm 陽性ミュータンス菌の有無と fimA II 型と IV 型ジンジバリス菌の有無を迅速簡便に検査できる反応系を開発した。 (北川雅恵, 長嶺憲太郎)
7 (学術論文) Selective and easy detection of the Porphyromonas gingivalis fimA type II and IV genes by loop-mediated isothermal amplification	共	2021年4月	Journal of Microbiol. Methods, 185, 106228	歯周病の原因菌であるジンジバリス菌の中で fimA 遺伝子タイプ II と IV を発現している菌を検出する LAMP 用プライマーを設計し、その評価を行った。 (北川雅恵, 應原一久, 岡 広子, 坂本真一, 山根優香, 柏木彩花, 金本梨香, 宮内睦美, 長嶺憲太郎)
8 (学術論文) RasGRP2 inhibits glyceroldehyde-derived toxic advanced glycation end-products from inducing permeability in vascular endothelial cells	共	2021年2月	Scientific Reports, 11, 2959	血管内皮細胞において、TAGE による血管透過性の亢進を RasGRP2 が抑制していることを見出した。 (瀧野純一, 佐藤拓真, 金高 匠, 沖原香純, 長嶺憲太郎, 竹内正義, 堀 隆光)
9 (特許出願) 細菌の培養方法及び検出方法	単	2020年11月	特願 2020-187611	液体試料中の細菌を培養する方法であって、試料中に通性嫌気性細菌が存在すればそれを増殖させることができる培養方法を開発した。 (長嶺憲太郎)
10 (総説) 糖化蛋白質 HNRNPM に焦点を絞った NASH 発症に関わる遺伝子の探索 《筆頭論文》	単	2020年10月	BIO Clinica 35, pp 75-78	HNRNPM の発現量を低下させた細胞を用いて、肝繊維化の要因となる糖化による NASH 発症に関わる原因遺伝子の探索に関して、我々が行った基礎実験から得られた知見をふまえて概説した。 (長嶺憲太郎)
11 (学術論文) Rapid detection of the Streptococcus mutans cnm gene by loop-mediated isothermal amplification	共	2020年9月	Analytical Biochemistry, 605, 113812,	遺伝子増幅法として LAMP 法を用いることにより、口腔内からサンプリングした日を含めて 2 日間での cnm+ ミュータンス菌の検出を可能とした。 (北川雅恵, 長嶺憲太郎, 岡 広子, 應原一久, 小川郁子, 小松澤 均, 栗原英見)
12 (特許出願) 核酸の分離方法及び増幅方法	共	2020年2月	特願 2020-033984	核酸を含む試料から簡便に核酸を分離することができる方法、及び試料中の核酸を簡便に増幅することができる方法を開発した。 (長嶺憲太郎, 中山章文, 古川 彰)